

令和7年度地域包括ケア推進会議 会議録

- 1 会議名：阿賀野市地域包括ケア推進会議
- 2 日 時：令和8年1月28日（水）午後1時30分～2時50分まで
- 3 場 所：阿賀野市水原保健センター プレールーム
- 4 出席者：（敬称略）
委 員：藤森勝也、本田吉穂、阿部信夫、阿部恵美、梅田昌子、岩村伸枝
渡辺寿、渋谷信和、稲月恵子、皆川謙二、吉川麻子、樋熊征夫、福地幸二
片桐三代嗣、本多聡美、渡邊恵美、
（委員16名中16名出席）
しばた地域医療介護連携センター：平野真弓、辻賢治
事務局：山寄美佳、井上由美、山崎あい、橋本身江子、渡部知彦、清田真里子
川口裕里、関口麻子、小見江梨子、田島めぐみ
- 5 議 題：
（1）地域ケア会議からの地域課題と施策提言について
（2）その他
- 6 非公開の理由：なし
- 7 傍聴者の数：0人
- 8 発言の内容

○議長：

それでは次第3議題に入らせていただきたいと思います。

皆さん次第をご覧になっていただきまして（1）地域ケア会議からの地域課題と施策の提言について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局：

それでは私の方から初めに、市の地域ケア会議の機能と位置付けについて説明をさせていただきます。これより着座にて失礼いたします。それでは資料1をご覧ください。

地域ケア会議は、この表の一番上の横向きの矢印にあります5つの機能があり、個別のケース会議の積み重ねと地域包括支援センター業務全般から、日常生活圏域の地域課題の把握を行うことにより、その解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには、介護保険事業計画への反映などの、政策形成につなげ、地域包括ケアシステムの実現を推進するものです。

当市では、左側の縦3つの個別地域ケア会議を開催しております。それぞれの地域包括支援センターで実施する個別の地域ケア会議では困難ケースについて、個別の課題と支援策を検討してきました。今年度は地域包括支援センター阿賀野で5件、

地域包括支援センター笹神で6件実施しています。

介護予防のための地域ケア個別会議は今年度から会議の形式を見直し、地域包括支援センターが関わる要支援認定者または事業対象者のリエイブルメント、元の生活に戻るための取り組みに対して、リハビリテーション専門職や参加者が自由に意見交換を行う形で、これまでに3回終了し、10件検討してきました。

またその下の医療と介護の連携に関する個別地域ケア会議は、年3回定例開催で、地域包括支援センター阿賀野と笹神と、あがの市民病院の地域医療連携センターが順番に主催、運営しております。医療と介護の連携に課題があるケースについて、医療介護の専門職や地域の関係者が集まり、毎回1例ずつケースを検討してきています。

これら3つの個別地域ケア会議から出てきた地域の課題と地域包括支援センターの業務全般から把握された、日常生活圏域の地域課題について、表の中央にあります圏域別、地域ケア会議をそれぞれの包括で開催し、地域課題を検討しました。

地域包括支援センター阿賀野では、「自家用車の運転やオンデマンドバスなどの利用ができないと、外出が困難になる」つまり、「オンデマンドバスに乗れない人の移送手段がない」、また「ごみ捨てなど日常生活に欠くことのできないちょっとした行為に対応できる支援の体制、サービスが少ない」、「地域で孤立している人、地域との繋がりがない人に対する自治会単位以外の生活支援体制が少ない」などの課題が出ていました。

地域包括支援センター笹神では、「ごみ捨てや灯油入れなどは、現状では介護保険でヘルパーを利用することになる」また「ごみ出しなどの相談に来る人は、地域との繋がりがない人が多い」、「車の運転ができなくなると交流ができないため、デイサービスを希望する」などの課題が上がっていました。

さらに、これらの各地域包括支援センターから出てきた地域課題について、右から2番目の市の地域ケア会議を、今年1月8日に開催し、生活支援コーディネーターとしばた地域医療介護連携センターの職員お2人にも加わっていただき、現状を共有し、優先する地域課題を選定するため、グループで意見交換を行いました。

そこでは、「地域の繋がりがない人は、ちょっとしたごみ捨てなどの困り事も頼める人がいないため、介護保険サービスを希望する」、また「移送手段がないとサービス卒業後の行き場がない」、「オンデマンドバスに乗れない人」の課題などがあがり、それらの課題をまとめ本日これから検討いただく地域課題を選定しております。

本日の地域包括ケア推進会議は最上位の会議となり、市の地域課題を提言し、施策につなげる機能を有しております。また、市全体の生活支援の仕組みづくりを協議するための第一層の生活支援協議体としても位置付けております。

私からの説明は以上になります。

○事務局：

では次に、令和7年度の地域課題として、「移送を含めた、ちょっとした困り事に対応するサービスがない」について、説明させていただきます。着座にて失礼いたします。最初に資料内容の訂正をお願いいたします。

資料の2のアの裏面、右上のサロン居場所数及びボランティア数と、そのすぐ下のあがの支え愛隊登録事業者数の表が入れ違っていました。

また、サロン居場所の数は、48となっておりますが、52に変更をお願いいたします。

括弧内はプラス1です。そこの訂正をお願いいたします。大変申し訳ありませんでした。

それでは資料2のAの表面をご覧ください。

最初に地域課題を取りまく阿賀野市の現状を説明させていただきます。高齢化率は令和7年度は35.9%となっています。65歳以上の高齢者は少し減少していますが、全体の人口減少の方が大きいので、高齢化率が上昇した格好になっています。

次に、高齢者のみの世帯は前年比175件増えており、年々増加しています。175件のうち単身高齢者は前年より129件増加していました。

高齢者の困りごとは毎年ほぼ変わらず、地域包括支援センターの職員が訪問していますと、このような内容のことがよく聞かれます。

表の中をご覧ください。外出時の移動に困っている高齢者の割合は、昨年度の市民アンケートによると7.5%で、ここ数年は4%台から7%台で、微減微増を繰り返してまいりました。

市役所総務課に届け出た運転免許返納者支援数は令和6年度116人で、前年より27人増加していました。

裏面にいきまして、75歳以上の市営バス無料パス券の発行数は、AIオンデマンドバスの登録と同時に、パス券を申請される方が多く、令和7年度はまだ途中ではありますが、昨年を上回っております。

それからサロン居場所数は52ヶ所で、括弧内はプラス1です。

ボランティア数は表のとおり89人です。ボランティアは口コミで増えたり、高齢や体調不良で辞める人もおられます。

あがの支え愛隊登録事業者数は39事業所で、前年からの減少数は3事業所です。減少した理由は、事業所の撤退によるものです。

とくし丸は市内全域で販売が行われております。

自治会支え合い実践事業は、危機管理課の防災事業と合同で助け合いの必要性を説明させていただくことで、より重要性を実感していただき、今年度もあと2ヶ月あまりですが、できる限り実施させていただく予定でおります。

令和7年度AIオンデマンドバスの利用啓発活動実績はバスを活用していただくために、総務課と共同で説明会を開催いたしました。実績は表のとおり、約170人の方に説明を行いました。

そして、次のAIオンデマンドバス移行前後の利用者数についてですが、バス年度は10月から翌年の9月までとしていますので、8年度となっていますが、令和7年10月の全路線AIオンデマンドバスになってから減少しています。

定時の市営バスで、「長年利用していた人の中には予約操作ができない」、「難聴で聞き取れず予約ができない」、「押し車を市営バスに乗せられない」、などの理由で医療機関への受診や買い物ができなくなり、困っている高齢者が地域にはおられます。

また、家の中では自立していてもバス停まで歩くことができない人、買い物をしても荷物が持てずにいる人、1人では歩行が心配な人など、少しの付き添いがあれば、出かけられる人もおられます。

また、移動移送だけでなく、地域でのごみ出しや家の中のちょっとした支援があれば、地域で暮らし続けることができる人もおられます。

そこで、資料2-Iをご覧ください。

今年度の地域課題は、介護保険の認定を受けるほどではない、認定を受けて専門

職であるヘルパーを利用するほどでもない、「移送を含めた、ちょっとした困り事に対応するサービスがない」とさせていただきました。

あるべき姿としては、「地域を越えて、ちょっとした困りごとに対応できる仕組みがある」そして、「既存の民間サービスとの融合」といたしました。

あるべき姿を実現するために、下の四角の現状で地域包括支援センターが取り組むこと、隣の四角の地域資源とどのように連携するか、実現のためにあったらよい地域資源の内容を記載しております。

そして地域資源開発のために、地域包括支援センターがアプローチすることは、自治会への支え合い啓発活動、居場所運営団体の生活支援活動の後方支援、新たなボランティアの掘り起こし活動、市民及び農商工業者の社会貢献及び生活支援意識の向上、社会福祉協議会への働きかけを行っていく予定です。

最後に提言といたしまして、1つ目が「移送を含めたちょっとした生活の困りごとに対応できるサービスの仕組みづくり」2つ目は、「ボランティアをしたい人と困っている人の個々のマッチング」、3つ目が「社会福祉協議会との協働と連携の推進」とさせていただきました。以上で説明を終わります。

○議長：

事務局の説明が終わりました。

それでは事務局の説明についてご意見ご質問があれば、挙手お願いいたします。

はい。どうぞ。

○A委員：

外出時の移動に困っている高齢者の割合ということで、総合計画市民アンケートよりというのがありますが、7.6パーセントとか4.7パーセントとかありますが、この数字は高いのでしょうか、低いのでしょうか。

要は、アンケートの市民アンケートが何人ぐらいの高齢者に対して、配布がされてそれに対して、7.5パーセントという数字になると思いますが、全体的に数字の信用性というか変な言い方ですが、例えばの話、上のところに、高齢者世帯数が4,000件ですね。そのところに全部アンケートをとったら、同じような7.5パーセントが出るかどうか。

そういう感じで、数字の見方というか、捉え方をちょっとお聞かせいただきたいんですけども、いいのか悪いのか。

○事務局：

ご質問ありがとうございました。

市民アンケートは、年齢が20歳以上、上は80歳以上までになっていて、高齢者だけにとった数字ではないので、その数字は全体を含めた数字なので、高齢者だけ取ると、もしかしたらもっと高くなると思います。

市民アンケートは2,000人を取っていて、その中で困っている人、高齢者に限定したものではないので、数字的には低く出ているとこちら事務局では感じております。

○議長：

他にどなたかご質問、B委員お願いします。

○B委員：

すみません。このとくし丸移動スーパーということで、活用されてるようですが、ここに計4台ということだったんですが、この地域、阿賀野市も合併して広くなっておりますけれども、この4台がどの地域に、どのぐらいの頻度で回っておられるのか教えてください。

○事務局：

ご質問ありがとうございました。

当初は2台から始まったんですが、今、4台で全域をカバーしていて、もう直接ご本人から申し込んでいただいているので、何人とか、どのくらいっていうのは、こちらではすみませんが把握できておりません。

そして頻度は大体週2回、回っておられるそうです。

○B委員：

週2回、この地域ではお買い物をする事ができるということなんですね。

○事務局：

はい。そうなります。

○B委員：

ありがとうございます。

やはり、使われてる方の声とか、実際皆さん市役所の方はお聞きになっておりますでしょうか。

○事務局：

そのことについては、高齢者のお宅に訪問するとよく聞かせていただいております。「週2回来てくれるので助かっている」という声と、「やっぱり自分で買い物に行って、買いたい」という方もいらっしゃいますし、「ちょっと高くなっているよね」という声と、「ここまで来てもらってるんだから少し高くても仕方ない」などの声が聞かれています。

○B委員：

ありがとうございます。

すみません、買い物の中で例えば調味料とか牛乳とかもあると思うんですけども、お惣菜とかもやはり売られてるものですか。

○事務局：

惣菜もありますので、あまりなくて困るというような品ぞろえではないですし、希望すれば次のときに持ってきてもらえるという仕組みになっております。

先日、私が訪問したお宅では、近くに移動スーパーが来るので、そこに町内の方がその時間になると10人ぐらい集まって、そこのお宅でお茶飲みをしたり、その移動スーパーがもとで、高齢者が集まる居場所にもなっているようなところがありました。

○B委員

はい。ありがとうございました。

○議長：

他にどうぞ。

○C委員：

すみません。ちょっと教えてもらいたいんですけど、オンデマンドバス利用者が減少しているという話があって、その理由が押し車を載せられないとか、様々理由あったんですが、このオンデマンドバスというのは高齢者だけではなくて、誰でも申し込みできると思うんですが、その今の申し込みの、年代別といいますか、高齢者どのぐらいとかいうのが、もしわかれば教えていただきたいんですけども。

○事務局：

登録者数は875人で、電話のみの登録の方が400名、Web予約が475名です。

年代別には10代と80代が多くなって、80代の登録が一番多いです。よろしいでしょうか。

○D委員：

すみません。

私、民生委員で高齢者の家をちょこちょこ訪問するんですけども、その中でオンデマンドバスに変わった時のことで、なかなか説明会行っても我々にはまずその操作もわからない。

それと、やっぱり前のイメージがありまして、何か難しいよね・・なかなかちょっと「ああよかった」という意見は聞かなくて、何か不満ブツブツブツブツ言われて私たちが行ったときにそういうお話してる方が結構おられたんですけども。

もうちょっと説明のときも、高齢者にわかりやすく、1回2回じゃなくて、本当に親身になって説明してもらえば、もうちょっと高齢者のバス利用が増えるんじゃないかなと思ってます。

あとはその申し込みの操作の方も、と私は思いますので、よろしくお願いします。

○事務局：

はい。ありがとうございます。ご希望があれば地域に何回でも出向かせていただくので、ぜひそういう機会を設けさせていただきたいと思います。

○E委員：

はい。質問ではないんですけども、運転免許の返納者支援数、これまで年ごとの返納者の数だと思うんですけども、これ累計とかでも数があるといいのかなというふうに思ったので。

あと、その次のページ、裏のページの市営バスの無料パス券の発行数、これも累計であると、大体現在でどのくらいの人かというのがわかるのでいいのかなというふうに感じました。

○事務局：

ありがとうございました。

○議長：

他にどなたかご意見ございませんでしょうか。

後程でも質問は結構だと思いますので、あとでまたお話を伺いたいと思います。

それでは、次の議題にまず移りたいと思います。議題の(2)その他について事務局の説明をお願いいたします。

○事務局：

事務局では特に用意しておりません。

委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

○議長：

では各委員の皆様、何か挙手で話したいことございますでしょうか。

○A委員

はい。

○議長：

どうぞA委員。

○A委員：

さっきのアンケートのところに戻るような形なんですけれど、どうしても何か高齢者の皆さんの意見というか、困りごとが何か聞き取れていないんじゃないかという気がするんです。

それで、高齢者世帯に全部アンケートを送って返送してくれというのはもう絶対無理なことなんで、自治会単位で把握していただくような、自治会で回って聞き取りをしてもらうとか。それも難しければ、ボランティアが今いないということで、ボランティアを育てるという意味でも、小学生とか中学生とか、子どもさんが今お年寄りと住んでない子どもさんが多いので、お年寄りと触れ合う機会もないので、その小学校、中学生の方に、協力してもらって、そういう高齢者の方の家に回ってもらって、困りごとを聞いてもらうということをしてできないでしょうか。

大人には言えないけれど、子どもさんだったらちょっといえるかなという人もいるかもしれないので、困っていらっしゃる方も、誰に言ってもいいかわからないので、そのままになっている人もいるかもしれないし、今高齢者世帯数でこう出てますけど、運転ができて、困ることはないけれど、もしかしたら、2,3年後免許返納して、移動に困るという、何か予測ができそうなおうちもあるかもしれないし、逆に、今不自由をしているけれど、そのうちに孫さんが、社会に出たら、子どもさん世帯が戻ってくるから大丈夫だよというような、そういう各家庭のいろいろな事情が、あると思うんです。それを市で全部把握するというのは無理なんで、例えばの話、自治会単位で把握していただいて、救急車に運ばれたときも、誰かその後見てもらうとか、連絡しようとする人は誰かとか、そういうちょっとしたことを、聞くことを自治会単位でやっていただけないかな。子どもさんにも手伝っていただいて、ボランティアのちょっと一環を見てもらいたいと思ったんですけど、いかがでしょうか。

○事務局：

貴重なご意見ありがとうございます。

自治会単位でというお話でしたけれども、自治会単位で支え合いの必要性を啓発するという活動は、地道ですけれどもやっております、今年度も、これからですが、危機管理課と一緒にっていく予定ではあります。

また子どもさんにも手伝ってもらおうということで、それは非常にいいアイデアだなと私も聞いて思いましたので参考にできればと思います。ありがとうございます。

○議長：

それでは3号委員の阿部さんから、1人ずつ、今日のことに关しまして何かご意見とか、ご質問でも結構ですけど。

○F委員：

少し時間がありそうなので、私の方からは、自立といいますか、要支援とか要介護にならないために、ということをやっと発言させていただきたいと思います。

私は普段から体育会系の人間なので、何となく運動するということが非常に興味があって、体を動かしていかないと人間は駄目になるみたいな。そういうふう感じてはいるんですけども、テレビでも、新聞でもいろいろ週刊誌でも、体操するといいか、よく言ってますが、具体的に歩くといいかと言われてますが、5,000歩歩く、毎日ですが。なかなか外に出て実行するのは、それも毎日継続してやるのはなかなか難儀なことがあると思っていますので、まずとにかくできることからやっていたらいいと思っております。

例えばですけども、1日大体3回食事すると思っておりますけれども、食事の後にその椅子から立って、座ると、例えば、ただこれだけですけれども、例えば10回ずつやると、1日3回30回ですけれども、これを1年間継続すると、結構、いい数になります。やる時にささっとやるんじゃないかと、なるべくゆっくり立ち上がって、なるべくゆっくり座ると、これを食べたらやると。

普通食後というのは、血液中に糖とか脂肪とかどンドン入って行って、血液中がドロドロになるんですけども、運動すると、中性脂肪とか糖分からどンドン使われていきますので、糖尿病の方であろうが、コレステロールの高い方であろうが、運動すると、その辺のところから減って行って、予防的な効果もございまして、血糖値も血糖値スパイクという言葉聞いたことがあるかどうか分かりませんが、食後30分ぐらいするとすごくはね上がって、また落ちてくるんですが、上がったたり下がったりすることによって血管が非常に傷ついて、動脈硬化へと進むんですが、運動すると、そういうところも値が小さくなったり、あんまりこう変動が激しくなくなったりするんですけども、とにかくできることを継続していかないとだめだということで、簡単なことでいいですから、毎食後、椅子から立って10回ずつ1日3回30回やったほうがいいんじゃないかと思っています。こういうことを継続していくことによって、要支援とか要介護とか、そういう方が減って、結果的にはめぐりめぐって医療費が減ってつまらないことで、ドクターにもかからなくて良くなったりするという効果があるかと思っておりますので、ぜひ私の方からは、ちょっとのことでいいから運動するとか体を動かすということをやっと実行していただきたい。これは年配の方ばかりじゃなくて、若い方も中年の方もそれなりの方ということで、やる

日から多分変わるかと思いますので、そんなことをちょっと提言させていただきたいと思います。以上です。

○議長：

はい。ありがとうございました。

G委員をお願いします。

○G委員

Gです。

高齢化が進んで高齢者のひとり世帯そして夫婦世帯がどんどん増えており、現在当市ではおそらく全世帯の中で25%から30%ぐらいのところにあります。全国的には2040年問題と言われておりますけれども、1人世帯も40%ぐらいまで行くだらうというふうに推計されているところでもあります。

このような状況で、どういうふうに行動したらいいかということ、F委員が言われたように、もちろん「自分の健康を自分で守っていく」ということが大切だというふうに思います。また高齢者で一人暮らしの人たち、そういった人たちが「孤立していかないようにする」ということが大切というふうに考えております。孤立しないような、地域での周りの人たちと関係づくりをしていくことがいいだろうと考えられており、そのためにやはり自治会単位で、「どういう方が一人暮らししているのか」というのを把握していく。自治会単位でみんなでごみ拾いをしたり、或いは地域のお祭りとか、或いは地域での防犯ということで子供たちが通学するところを見守ってあげたりとか、或いは健康講座とかを聞いてみんなで健康に取り組みましようとかですね。いろんな集まりがあるかと思いますが、そういった時に積極的に声掛けをして、1人暮らしの方でも足を運んでいただいて、こういう方がいらっしやるんだなというふうに認識していきながら、みんなで何かこの方困っているようだったら、「ごみ出しちょっとしてあげよう」とか、或いは「雪かきしてあげよう」とか、そういった「助け合いの心」を持つ。やはり小さなコミュニティとしての自治会は大切だと思いますので、先ほど本多委員も仰っておられましたけれども、そういった活動を市の皆さんも一生懸命考えていただいておりますし、またそれぞれの委員も、意識してこのような活動をしながら或いは活動を進めていくことが、これからの高齢化社会で大切なのかなと常々思っております。ぜひこのようなところにも、私も関係していければなと思っております。以上です。

○議長：

はい。ではC委員をお願いします。

○C委員：

C委員です。

私、オンデマンドバスのことでもちょっと思ったことなんです、こちらを予約すると、その人の希望する時間に、バス停に来てくれるという制度だと思うんですが、この運転手さんはどういうふうに確保してるのかなというのがわからなくて、その確保はどういうふうにしてできているのかなというのが1つ思いました。

何でそういう話をするかということ、私どもの法人で有償運送という事業をやっているんですが、こちらについては制約があって、介護保険申請している人とか、療

育手帳を持っている人とか、限られた人で、月3回までということで有償運送やっています。

2年に1回ドライバーになるための講習会をしていますが、集まってくれる人がみんな業者さんばかりで、本当にボランティアをやりたいと思って登録してくださる方がいなくて、今登録名簿30人いるうち、実質稼動してるのが4人もいないぐらいで、利用者が7人いるので、職員が業務の合間に有償運送をやっているというのが、主な実態になっておりました。いかにこのボランティアさんを確保するかが、有償運送にかかわらず、今私ども課題だなと思っているところで、今高齢化ということもあって、仕事を60歳が定年ではなくて、65、70、75でも働いてる方もまだまだたくさんいて、ボランティアを募りたくても集まらない現状があって、特に有償運送は本当に危機的状況になって、また令和8年に講習会を開催するんですが、どうかボランティアさんにつなげるような方を今探しているところなんで、どこも同じなのかなと思って話を聞いておりました。以上です。

○G委員：

Gと申します。ケアマネをしております。

直接ご利用者さんの自宅に訪問する現場のケアマネとしては、以前よりも、その地域包括ケアシステムが少しずつ現場に根づいてきているのかなというふうに感じています。

医療や行政と一緒にひとり暮らしの方や高齢者夫婦世帯の方の支援において、その効果をちょっと実感しております。

ちょっとした困りごとっていうところで、とくし丸はやっぱりご利用者さん喜んでいます。

ただ音がするのでちょっと恥ずかしいとか、そういうふうにおっしゃる方もいらっしゃいます。

あとオンデマンドバスは私も課題だと思っていて、お勧めするんですけども、市役所に電話して聞くこともできるよと言っても「やっばそんないいさ」ちいうふうにおっしゃられて、なかなか繋がらないので、もっと利用しやすいものだっていうのをお勧めしていきたいなと思ってます。以上です。

○議長：

ありがとうございました。

ちょっとその前の質問の、運転手の件もしお答えできるなら、今事務局の方から

○事務局：

AI オンデマンドバスの運転士さんは、ほとんどタクシー会社に委託しているので、タクシーの運転手さんがほとんどです。

○議長：

はい。ありがとうございました。

H委員さんお願いします。

○H委員：

Hと申します。今回初めて参加させていただきました。

こちらの議題の方見ると、やっぱりヘルパーの仕事内容にも直結していて、すごく利用者の方からもよく聞かれるような声がたくさん載っているなと思いました。

とくし丸なんですけれども、ヘルパーの利用中に、週に2回来られるんですけれども、かつては車の方まで歩いて買い物に行かれていた方も、だんだん足が不自由になって、外に出られなくなったりだとか、そういったときにとくし丸さんの方からおうちの方まで来て注文を聞いて、届けてくださったりとか、親切にしてくださってる方がいてとても喜んでいました。

あとごみ出しに関してですけれども、ヘルパーの方でごみはまとめるんですけれども、なかなか当日の朝、ごみを出すことが難しいとなったときに、前日にごみを出してもいいかというのを自治会長さんに確認をとって、前日の夕方にヘルパーが入って、ごみ出しの場所にごみを出すというようなことをしているんですけれども、それが難しいときには、自治会長さんの方で協力してくださって、ごみ出しの当日の朝、そのごみをステーションの方に出してくださるといような協力も得ています。

あと受診の介助なんですけれども、やはり介護保険内のサービスでは難しく、介護保険外のサービスとしてヘルパーで入っているんですが、やはり自費が出るといことで、でも金銭的に、難しいという方もいらっしゃるって、ケアマネの方で対応したり、市の方にご相談したりしているような現状があるので、こういった困りごとが早く解決できるようなになるといいなと思いました。以上です。

○議長：

はい。ありがとうございました。

ではI委員お願いします。

○I委員：

Iと申します。

私ども施設としては、こうした要介護者、支援者になる手前の方の困りごとに関してのサービスは、直接的には関係する部分は少ないかもしれませんが、一応在宅としてデイサービス、ショートステイがありまして、そちらでは日々の暮らしにおいて生活する上でいかに残存機能を低下しないように、個別的な機能訓練ですとか、力を入れて、今までとおりの生活をしてもらおうと、施設に来て同じような生活をしてもらおうというところに重きを置いて、取り組んでいます。

直接的ではないんですけども間接的に高齢者の方に残存機能を維持してもらって、より生活の質を高めるために質の高いサービスを提供して参りたいと思いますので、よろしくをお願いします。以上です。

○議長：

Jさんお願いします。

○しばた地域医療介護連携センターJ：

いつもお世話になっております。新発田北蒲原北蒲原医師会のしばた地域医療介護連携センターJと申します。医療介護の地域ケア会議だったり、あと市の地域ケア会議にも参加させていただいています。

ちょっとした生活の困りごとの中に移動を含めたというふうに提言されているん

ですが、その中で感じていたことが、もう受診がやっぱりできなくなってくる高齢者が多くなっているという辺りと、受診の理解や中断されるというようなことが起こっているということで、在宅医療介護連携推進という、以前の問題なんだというふうに感じていました。

そんなところで移動を含め次年度からまたちょっと、視点を持っていくということについては、本当に改善ができたらいいなというふうに考えております。

それとあと他の市町のところにも推進ケア会議に出させていただいてるんですが、同じような傾向で、高齢者を支えるための例えばボランティアさんであったり、シルバー人材センターの方々であったり、老人クラブの方々もやっぱりどんどん少なくなっていてボランティア活動がなかなかできなくなっているということを知っていて、阿賀野市においてもそうなんだというふうに先ほども伺ってありましたので感じておりますが、やはり高齢者同士がちょっとつき合いを深めていって、支えていかなければいけない状況になっているんだというふうに感じています。

これからも在宅医療介護連携推進事業にかかわらず、また地域ケア会議にも参加させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長：

はい。じゃあKさんお願いします。

○K社会福祉士：

同じく連携センターのKと申します。

やはり高齢者の生活基盤なくして医療介護のサービス提供はできないんだというのを、今日の会議を通して感じました。

またその対策としていろいろ取り組むべきこと、上がっていますけれども、地域包括支援センターだけではできない項目ばかりですので、地域の方ですとか、私たち医師会もこの活動に協力していきたいと思いました。以上です。

○議長：

はい。ありがとうございました。

ではこちらの列に沿いまして、D委員から順にお願いいたします。

○D委員：

民生委員児童委員の会長やってますDと申します。よろしく申し上げます。

社協の方から送迎のドライバーさんがいないという話がありましたけれども、私どもには日頃、乗用車乗っている方にワゴンタイプの、まずワンボックス乗るといのはなかなかハードルが高いと思われまます。

日頃私らはもうずっと運転やってきましたので別にいいんですけども、軽乗用車しか乗ったことがないのにワンボックスに乗れと言うと、曲がるにしても大変、バックするにも大変というような感じで、なかなかそういうのがありまして、事故を起こしたらどうしようとか、いうのがあってなかなか応募がないのかなあと思っています。

免許があれば誰でも乗れるというものじゃないですからね、その勘も、だんだん高齢になってくると、運転の勘もだんだん鈍ってきますので、私自身は、今年は70

過ぎましても、まだトラックは乗っていますけれども、やっぱり昔からトラックに乗ってるから、車運転するのは好きだからという感じでやっていますけども、そういうので、いきなりトラックに乗れと言われても無理かもしれません。なので、そういうのもあって、やっぱり誰かがいると思うんですけど、なかなかね。「はい」という感じで手を挙げる方は難しいと思いますので、やっぱり地道に誰かに聞いてみるとか、応募とか、すればいいんじゃないかなと私は思っています。以上です。

○議長：

ありがとうございました。B委員お願いします。

○B委員：

はい。本当に今日ご報告いただいた内容なんですけれども、これがやはり昔であれば、個人で頑張ること、家庭で頑張ることだったものが、やはり人口構造といいますか、家族構成もどんどん変わってきていて、時代が本当に変わってきたなということを実感いたしました。

ただやはり行政がどこまでやるか、また皆様がどこまでやるかっていうところが、やはりいつも考えるところだと思うんですけども、やはり本人が本人の力を、まだあるわけなので、ご本人の力、そして家族の力、そして地域の力ということがそれぞれあると思いますので、すべてお膳立てするものではなく、それぞれの力を発揮して、この地域をこの阿賀野市を作っていくということだと思いますので、本当に皆様力を合わせてやっていきたいなと思いました。応援しておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○議長：

ありがとうございました。L委員お願いします。

○L委員：

はい。本日いただいた資料の中で、高齢者の困りごとという中で、空き家になったときの管理処分してくれるものといった相談があるというふうにいただいております。

やはり、どうしても今お一人暮らしの高齢者の方、増えていますので、そのあとの家の処分とかどうするかといった問題は、当然出てくるのかなと思います。財産の関係になりますとやはりその本人の意思表示というものが、やはり一番大事になってくるかと思えます。

それができなくなったときにどうするかというのも非常に大きな問題になると思いますので、こういった財産とかについてはですね、そうなる前に、早い段階から意識づけをするような、普及啓発というものも、1つ必要なのではないかなというふうにご本日感じております。以上です。

○議長

はい。ありがとうございました。

E委員お願いします。

○E委員：

私も今日お話を聞きまして、高齢者の困りごとの中でのごみ出しと言うのもありましたが、それに関しましては本当にごみを出すというだけではなくて、市民生活課の方でもごみの話に回ると、やっぱり大きな可燃性の粗大ごみを今小さくしてくださいと、言われているんだけど、それをやっぱり細かくすることができなくて困っているということで、いろんな課で様々な高齢者の困り事は聞いているところです。

共通している部分もあるので、その辺りは1つの課だけじゃなくって、やっぱりみんなで協力し合いながら解決をしていかなければならないのかなというふうに、思いました。

そして移動支援に関してもなんですけれども高齢者の移動支援はもちろんなんですけれど、やっぱり障がい者の方でも移動支援、非常に困ってしまっていて、この辺りも一緒に考えていけたらいいんじゃないかと思っています。

移動支援に関して他の自治体とかで、例えばうまくいってるような事例とかってというのは何かご存じであれば、教えてもらいたいなとか思うんですけど何かわかりますか。

○事務局：

近隣で五泉市が乗り合いタクシーのサービスをやっていると聞いています。

○E委員：

その辺りは他でうまくいってるところをちょっと見ながら、うちでできないかという辺りも考えていければいいのかなと、感じました。以上です。

○議長：

ありがとうございました。M委員お願いします。

○M委員：

12号委員の水原地区の支え合い推進会議の代表をしていますMと申します。よろしくお願いいたします。

移動の関係でいきますと、私も今ふれあい広場という拠点の居場所の代表をしています。そこに集まってくださる、高齢者の方、ほぼ7割以上が送迎なしでは来れない方なんです。ですから、その送迎するドライバーを確保するのが大変難しいという状況もあったんですが、たまたま近くの人に、「できますか」というお願いをしたら、「やりましょう」と、というようなことで、6名ほど登録しているんですけども。「週1回のことだからやりますよ」ということでやってくさっているというような状況でございます。

どこの広場もおそらく同じようなドライバー不足というのは避けて通れない状況だと思います。いかに、先ほど自治会でなんかいろいろ話ありましたが、自治会内で顔をつないでおかないとなかなか、ドライバーは確保できなかったかというような感じもいたしますので、参考までにでございます。以上でございます。

○議長：

はい。ありがとうございました。

ではN委員お願いします。

○N委員：

安田のふれあい広場に参加させてもらっています。Nと申します。

安田の方のちょっと自慢話を聞いてください。私の方においでいただいている方で、何と来月2月に100歳になる方がいらっしゃるんですね。もちろん我々の方で送迎させてもらっているんですけど、このように阿賀野市で4ヶ所ふれあい広場やられてるんですけど、なぜか男性が4割超えるんですね。

何でって言ったらやっぱり誰かが将棋を始めたりとか、オセロを始めたりとか、ちょっとそういうのをやっていると、私安田なんですけど水原とか笹神からもおいでになる、当然それをまた送迎する担当の方もいらっしゃいますので、私もちょっと送迎してるんですけど、やっぱり今の問題です。送迎が一番難しいなど。

送迎の中で、阿賀野市の方に非常に助かったのは、何と車の事故ですね、自損事故というか、車の保険を追加で入れていただいて、窓ガラスが割れたりとか、サイドミラー割れたりとか、そういうのは保険に入れていただいて、ありがとうございます。

なお、今回この雪で、今年雪降りそうだなと思ったら何と阿賀野市の方から除雪用の雪囲いを作ってもらいまして、非常に助かりました。以上です。

この市との繋がりがとてもいいなと感じました。

さっきの100歳の方なんですけど、新潟日報の新発田支部に電話して、何と100歳の方が来られているんですよって自慢したら、いや、そんなのはね、新潟県で何人もいらっしゃいますから、記事になりませんって、断られたことも併せて、これいいことなのか、残念なことなのかというのは、考えさせられる昨今でした。

○議長：

ありがとうございました。○委員お願いします。

○○委員：

私は笹神地区の支え合い推進会議の代表をやっています○と申します。

私もその活動の中ではもう、居場所ですねふれあい広場の方、携わらせていただいているんですけども、2019年に発足してますからもう今年で7年目に入るんでしょうか。大体どこでも4地点のふれあい広場の活動も同じ時期の発足です。

途中コロナがありまして、年の開催が半分ぐらいの年もありましたけれども、昨年ぐらいから落ち着きまして、毎週、1年通じて開催できるようになりました、コンスタントにですね、活動しているような状況になっています。

最近の状況と、今後の課題というところでちょっとお話ししたいと思うんですけども、送迎が私ども6名でやっておりまして、利用者の方が大体今24名から26名ぐらいでしょうか、大体そんな程度で今推移してるんですけども、開設当初から来られている方ももう、6歳以上年を取っているわけなんですね。

年々やはり高齢化が進んでおりまして、そういった意味もありまして、広場では、できればそのお年寄りに元気に行っていただきたいということで、フレイルの予防の意味も込めまして、毎週めきもり体操やってるんですけども、非常に皆さん元気で体操には参加していただいています。その他にボッチャですとか、輪投げ、あと手先の練習ということで折り紙とかですね、あと口腔ケアでは早口言葉とか、あと皆さんと一緒に歌うとか、そういった活動を結構取り入れているようになりました。

非常に皆さん一生懸命ですね、やっていただいて、そういった意味ではですね、1つ利用者の方の楽しみ以外でも、そういったフレイル予防という形でもですね、活動の意義はあるのかなあというふうに最近思っています。

あと課題としてはですね、やはり高齢者の方の年齢が、どんどんあがっているんですね。超高齢者というか、もう平均85歳以上なってるんでしょうか。そんな状況です。

あとボランティアの方もですね、やはり高齢者にだんだん近づいてまして。皆さんも70歳えられた方も多いです。ですのでこの先、何年同じメンバーでやっていけるのか、ちょっと不安なところもあります。

ですから、これからボランティアの方を、ぜひ若い方、若いというか、我々よりも1世代年代の、下の方がどんどん入ってこれるような、そういったことがこれから課題としてはあるのではないかなと思っております。以上です。

○議長：

はい。ありがとうございます。

ではA委員をお願いします。

○A委員：

私も、京ヶ瀬は広場って言わない、ふれあい広場と言わないで京ヶ瀬サロンっていうんですけども、立ち上げは一緒のサロンです。やっぱりボランティアに本当に困っております。一番若くて65でしょうか。あとそれ以上、もう70代、80、なった方もいらっしやって、利用者さんよりもボランティアの方が年齢が上がっているような状態でして、本当に若いボランティアさんに来て欲しいなあと思うんですけど、その発掘というのが、本当にできなくて、市の方のこちらの提言で「ボランティアをしたい人、困っている人、ボランティアをしたい人と困ってる人の個々のマッチングから始める」という、この提言がありますけれど、ボランティアをしたい人、本当に見つけていただきたいと思えます。

うちのサロンの代表が一番若いですがけれども、私と代表と、割とその2人が中心になってやっているの、本当に2人がだめだったら、このサロン終わりだよねっていうような会話がよくあるんです。それで、ボランティアの新しいボランティアの方、もうちょっとでいいですから、少しずつでもいいですから興味を持っていただいて、何だろう、積み重ねてお手伝いしていただけるような方をぜひ発掘していただきたいと思えます。

それからあと移送のことで、うちは1人だけ、代表が送迎してるんですけども、その方が、利用者さんが来られなくなれば今のところ、送迎はしなくてもいい状態なんですけれど、またこれ、今後そういう送迎を必要とされる方が増えてきたら、私たちは本当に送迎ができないんで、成り立たないなというような状態しております。あと、ちょっとさっき有償のことをおっしゃっていましたが、何かで読んだんですけど、事業送迎の方がなかなか、受けてくるくださる方がいなくて、送迎の方が万が一事故って翌年免許更新、免許じゃない、保険を更新するときに、どうしても事故った場合は、金額上がりますよね。それを何か保障してくださるっていうような、何かなんか見たんですよね。なんだったかごめんなさい、忘れてしまって、そういうことを市がしてくださることはないですよ。ごめんなさい。余計なこと言いました。すいません。とにかくボランティアの方を、はい。

○事務局：

ボランティアの送迎のとき、もし、事故を起こした場合は補償が出ますので、はい。安心して。自分の保険に関係なく市の保険を使います。

○A委員：

保険料、差額を出してくださる？

○事務局：

差額を出すということではなく、ボランティアの送迎保険を使っているの、その辺は市の保険でやってもらえば大丈夫だと思います。

○A委員：

ごめんなさい。私が読んだのは、保険を1年ごとにしますよね。更新を。その時に事故すればどうしても級が上がるとか下がるとか、そうすると保険料が違いますよね。その分を事故ってない場合のときとの差額を保障してくれるという。

○事務局：

その保険を使わない、自分の保険は使わないで、市の保険を使うので、はい。自分の保険はそのままにしておいていただければいいです。

○A委員：

はい、わかりました。ありがとうございます。

とにかくボランティアさんを何とか、発掘をお願いしたいな、何かいい方法はないかな。さっきも言いましたけれど、本当に若い方が子どもさんから、気をつけていただけるようなことがあればいいなと思います。

○議長：

はいありがとうございました。

○N委員：

すみません。多分、時々市の広報とかいろんな案内で、ボランティア募集っていうのが項目結構ありますよね。その中でこういう機会ですので、どんな数集まって、どんな内容、どんなボランティア募集とかという、そんな状況をちょっと少し教えて欲しい。

なぜ、そんなこと言うかと言うと、私、新潟の東区の別の会社で勤めていて、東区の方と知り合いになったんですけど、いや仕事辞めてやることないので言ったら、東区の役場行って、ボランティアの欄を見せてもらったら、ごちゃまんに出てきたそうです。

それで何を選んだらいいかは、まだ会ってないんですけど、市の広報でボランティア募集やってて、どんなものがありましたかっていうのは、ちょっとわかる範囲で。

○事務局：

当市ではボランティア講座を1年おきにさせていただいて新しい方を募っていま

す。大体 18 人前後おいでになります。今度、ボランティア講座が終わった後、どんなことをやるボランティアさんご希望ですかとか、逆にこちらからふれあい広場に行ってみませんか、とか地域のサロンに行ってみませんかというお声掛けをさせていただいています。

また認知症カフェも含めてなんですけれども、なかなかそこまで、頑張っただけで地域に出てやろうという方が少なく、年間 2 人とか 3 人くらい、はいらっしゃるんですけど、見学に行って、いや、ちょっと違うかなと言って辞めてしまう人もいて、1 人 2 人が残る感じでしょうかね。

そんなくらいで、あとは市民フォーラムでボランティアさんも募集しています。名前書いていただく方が大体で七、八人いらっしゃるでしょうか。

その方に働きかけるんですけど、いざとなるとやっぱりちょっと様子をみます。

という方がほとんどで、そちらの方も 1 人 2 人残るか残らないかって言うところで、なかなか実際のボランティアさんに繋がらないところが現状です。

○議長：

はい。ありがとうございました。2 号委員の P 委員

○P 委員：

P です。月に数回ですが、介護施設の方に伺っております。

伺う時間が午後の、おやつ時間帯ぐらいなので、お昼寝をされていたり、皆さんとても穏やかに過ごされていて、落ち着いていらしゃいますねと職員の方に伺ったら、でも夕方になると、皆さんお家に帰らなきゃいけないってそわそわされるんです。そういうお話でした。

どんな環境が整ってる場所で過ごされても、ご自宅が一番いいんだろうなと、そういうふうに感じました。

少し支えていただければ、家で過ごせる時間も長くなるのかなと思います。そういう市になって欲しいと思います。

○議長：

ありがとうございました。

ちょっと時間がありますので、私の方から 1 つ質問させていただきたいんですけど、私のところに来る患者さんの中にもオンデマンドバス利用されてる方もいるし、ちょっと無理だった方もいるんですけど、具体的に、AI って書いてあるから電話で自動音声の音になるのでしょうか。

ちょっとやり方が全く私聞いたこともないので、どういう仕組みでどうだったのでしょうか。

○事務局：

予約は、電話をすると、こちらの事務の方が対応します。電話で直接やりとり、人とのやりとりをします。あと Web だと 24 時間で、スマホで予約になっていて、人との会話はなく予約できます。

○議長：

往復頼まなきゃ駄目とか、片道だけでもいいんですか。

○事務局：

はい。そうです。片道だけでもいいです。

○議長：

例えば帰りがその予約がその時間じゃ無理となったら、その日は無理なんですか。当日の変更は。

○事務局：

当日は1時間前までなら可能ですが、その次、じゃあ何時にお願いしたいって言ったときに、空いていれば可能ですけどもバスが空いていなければ、予約はできません。

○議長：

帰り11時で予約したけど、それがちょっと無理になって12時したいと思っても、その時間が空いてなければ13時になるか14時になるかわからないっていうことですね。

わかりました。それは普通のバスが来るんですか。

○事務局：

ワンボックスで、10人乗りぐらいのワンボックスです。

○議長：

小さいマイクロバスみたいな

○事務局：

はい。

○議長：

バス停はもう決まってるんですか。こことここって。

○事務局：

はい、地域でみんなバス停が決まっています。

○議長

到着はやはり行き先も決まってるんですか。

例えば自宅の近くのバス停で乗って、目的地はどこと言ったとき、それも最寄のバス停になるんですか。

○事務局：

そうです、バス停からバス停までです。

○議長：

なるほど。多少歩けないと無理ということですね。

○事務局：

そうなります。

○事務局：

ありがとうございました。

他にどなたかご意見とかご質問とかございますでしょうか。

○○委員

よろしいですか。すみません。先ほどのボランティアがなかなか集まらないということなんですけども、全国的に見ると、一部の有償ボランティアという制度でやっているところもあるかと思うんですけど、そういったところで有償であれば、仕事の合間にやれるというような方がいるのかなという気もするので、そういったところも、いろんな情報を集めて、この場でもし、この場でなくても阿賀野市として実施できるのかどうか、検討していただければと思うんですけども、その辺はどのような状況になってるのでしょうか。

○事務局：

今後はぜひ有償で進めていきたいと思っていますので、これから皆さんのこの会議とか推進会議とか、様々な機会に有償のボランティアさんを集める、また育てる機会を設けさせていただきたいと考えております。

○事務局

ちょっとつけ足しなんですけども、今年度生活支援コーディネーターの方で支え愛隊の事業所登録しているところに、今、回っていただいているんですけども、その中で個人で登録している方がいらっしゃいまして、その方は個人で、有償で、移送のお手伝いをしたりプラスちょっとしたお手伝いをしてくださっている方が実際にはいらっしゃるので、そんな方から少しずつ広まっていけばいいなと思っています。

○議長：

他に、改めて追加の、G委員お願いします。

○G委員：

Gです。

単身高齢者の世代は、2,128世帯ということなんですけども、この詳細と言いますか、例えば、年齢階級、「65歳から75歳まで」、或いは「85歳まで」、「それ以上」とか、或いは近隣に子どもさんがいらっしゃる人もいれば、全く本当に「身寄りがない方」もいらっしゃるかと思います。繋がりを作っていかないと危ないかなと思われる方、お一人暮らしで身寄りがない方、気をつけていかなきゃいけないと思われている方は実際どのぐらいいるのか、市の方が認識されていて、そういう方々には多分定期的に訪問されたり、いろんな役員の方々様子を見に行かれたりしているかと思うんですけども、残った時間で教えていただければと思います。

○事務局：

今現在お一人暮らしの方の75歳以上で連絡先がない、身寄りがない方というのが113名ぐらいいらっしゃいます。

その方たちについては、なるべく早い段階から包括の方でも訪問しながら、ご本人との関係づくりをしながら、地域との関わりであったり、必要なサービスにつなげるといような支援をしております。なかなかそういう方たちが要介護になったり、生活が立ち行かなくなると、困難ケースになっていくという実態がありますので、なるべく早い段階からの関わりが必要かなと思っております。

○G委員：

ありがとうございます。

○議長：

はい。ありがとうございました。

他にどなたかご発言ございますでしょうか。ではないようですので、本日の議題につきましてはすべてこれで終了いたしました。

以上をもちまして、令和7年度地域包括ケア推進会議の議長の任を解かせていただき、事務局に進行をお返ししたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

○事務局：

会長議事進行ありがとうございました。

今回の会議の議事録ができましたら、委員の皆様へ送付し、内容の確認をお願いしたいと思います。その後修正したものを市のホームページに掲載いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは次第4の閉会になります、閉会のご挨拶の方P副会長よりお願いいたします。

○P委員：

皆様お疲れ様でした。大変有意義な会議だったかと思います。

ではこれで閉会いたします。ありがとうございました。